



## 答え合わせ・解説 No.2

問1	答え 4 鮮卑	北魏を建国した鮮卑は、モンゴル高原から中国北部に進出した遊牧民族である。彼らの社会では、女性が家庭内だけでなく、訴訟や交渉などの公的な場でも活発に発言・行動する風習があり、漢民族の伝統的な儒教的な女性観とは異なる特徴を持っていた。この風習は北朝の社会に大きな影響を与えた。
問2	答え 4 八王の乱	西晋の初代皇帝は、魏が皇族を優遇しなかったために孤立して滅びたと考え、自らの一族を諸王に封じて兵権を与えた。しかし、これが裏目に出て、彼の死後に帝位継承や主導権をめぐる皇族間の激しい内乱へと発展した。この混乱は五胡の侵入を招く契機となった。
問3	答え 2 グプタ朝	4世紀から6世紀にかけて北インドを支配したグプタ朝の時代には、ヒンドゥー教の発展を背景にインドの古典文化が花開いた。この時代に『ラーマーヤナ』などの叙事詩が現在の形に整えられ、アジャンター石窟の壁画などの美術が栄えた。なお、ウパニシャッド哲学はこれよりはるか昔のヴェーダ時代に成立した思想である。
問4	答え 3 シチリア島	シチリア島は地中海の要衝に位置し、古代から多様な民族が往来した。古代にはフェニキア人がカルタゴの拠点を、ギリシア人がシラクサなどの植民市を建設した。11世紀後半からはノルマン人が進出してシチリア王国を建国し、イスラーム文化とキリスト教文化が融合する独特の文化が栄えた。1860年にはガリバルディ率いる千人隊（赤シャツ隊）に占領され、サルデーニャ国王に献上されたことでイタリア王国成立への道が開かれた。
問5	答え 3 楽浪郡	前漢の武帝が衛氏朝鮮を滅ぼした後に設置した朝鮮四郡のうち、最も長く存続したのが楽浪郡である。4世紀初頭（313年）に高句麗によって滅ぼされるまで、中国文化の東方伝播において重要な役割を果たした。この郡の滅亡により、中国王朝による朝鮮半島の直接支配は終焉を迎えた。
問6	答え 3 パータリプトラ	マウリヤ朝は前4世紀後半にチャンドラグプタによって建国されたインド最初の統一王朝であり、その首都はガンジス川中流域に位置するパータリプトラに置かれた。第3代アショーカ王の治世下では、この都市で第3回の仏典結集が行われるなど、仏教の発展において重要な役割を果たした。インダス川流域に位置するハラッパーなどはインダス文明の遺跡であり、マウリヤ朝の首都ではない。
問7	答え 1 五賢帝	ローマ帝国は、1世紀末から2世紀末にかけてのネルウァ、トラヤヌス、ハドリアヌス、アントニヌス=ピウス、マルクス=アウレリウス=アントニヌスの5人の皇帝の時代に最盛期を迎えた。この時代は五賢帝時代と呼ばれ、特にトラヤヌス帝の時代に帝国の領土は最大となった。
問8	答え 4 武帝	匈奴の討伐や南越・衛氏朝鮮の征服など、積極的な外征を行ったことで国家財政は窮乏しました。この財政難を解決するため、この皇帝は商人の出身である桑弘羊らを登用し、塩・鉄・酒の専売や、均輸・平準の法を実施して国家による経済統制を強め、財政の再建を図りました。
問9	答え 1 新羅	4世紀以降、朝鮮半島では高句麗・百済・新羅の3国が対立する三国時代が続いた。このうち新羅は、唐と結んで660年に百済を、668年に高句麗を滅ぼし、さらに唐の勢力を朝鮮半島から排除して676年に統一を達成した。
問10	答え 1 オクタヴィアヌス	グラックス兄弟の改革挫折後、ローマは内乱の1世紀と呼ばれる混乱期に入った。カエサルらの第1回三頭政治を経て、カエサルの養子であった人物が台頭した。彼は前31年のアクティウムの海戦でアントニウスとクレオパトラの連合軍を破り、地中海世界を統一して、前27年に元老院からアウグストゥスの尊称を得て帝政（プリンキパトゥス）を開始した。